



社会で必要なコミュニケーション力

浜中町立茶内小学校長 富田直樹



校長先生、少し疲れていませんか。1学期もあと少しで終わるので、元気を出して頑張ってくださいね。

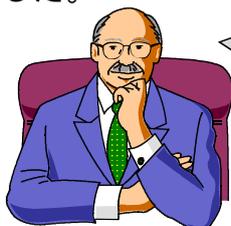
先週の土曜日から26日間の夏季休業期間に入りました。コロナ禍が継続する中、全ての子どもたちが無事に1学期を乗り切り、夏季休業を迎えられたことに安堵するとともに、改めて本校を支えていただいた保護者や地域の皆

さんに感謝を申し上げます。そして、今、子どもたちが家庭や地域の中で充実した時間を過ごしてくれることを願っています。

さて、1学期の最終週の朝、子どもたちと挨拶を交わしていると、ある高学年の子どもが、「校長先生、少し疲れていませんか。1学期もあと少しで終わるので、元気を出して頑張ってくださいね」と声をかけてくれました。疲れた表情で子どもたちに接していたことを反省するとともに、その子どもの優しさに触れて、気持ちが温くなりました。同時に、その子どもの「コミュニケーション力」の高さに感心しました。

子どもたちは将来、社会に出て行くので、学校では社会が求める「コミュニケーション力」を育てていく必要があると考えます。

では、社会が求める「コミュニケーション力」とは、どんな力なのでしょう。昨年度、北見市内のある企業経営者の方と懇談する機会があり、その方は次のように話されていました。



お客様は、本当に価値があると思った物を購入します。物をつくれば売れた時代から、本当に価値があると思われないと売れない時代になってきていますから、企業は必死です。現代のお客様のニーズはどのようなものなのか、新しい社会をどう築いていけばよいのか、真剣に考えています。そんな真摯な問いについて多様な相手とコミュニケーションがとれる人を私たち(企業)は求めています。

この企業経営者の方の言葉から、学校では、例えば形式的な挨拶ができるようになればよいということではなく、私に声を掛けてくれた子どものように、挨拶のときにも相手のことを考えて(相手意識をもって)自分の気持ちをうまく伝えられる能力を、子どもたちに育てていく必要があるのだと思います。気持ちのこもらない挨拶は、形式的な場面しか役に立たないですし、小学校6年間の中で、それしか身に付けられないというのであれば、物足りない時代になっているのだと感じます。

【お知らせ】 学校だよりのタイトルの横にあるQRコードから本校のホームページに入ってみてください。そして、「行事の様子」を御覧ください。4月から7月までの各種行事等の様子を掲載しています。